

科目名		授業形態	担当教員名	
失語症演習Ⅱ（評価、訓練）		講義・演習	太田 信子・今井 絵美子・菊森 清美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
失語症例の映像、音声、検査結果などから情報収集、障害の評価、言語聴覚療法の訓練目標および具体的訓練プログラムの立案、教材作成の練習を行う。更に討議を行い理解を深める。またレポート作成を通じ、臨床報告書の形式、表現法を修得する。標準失語症検査に習熟する。コミュニケーション援助技術についてグループ指導のもと、介護老人保健施設いきいきの郷において実践演習を行う。グループ演習の計画・報告を通して、文献調査と成果発表の練習も行う。				
授業の到達目標				
失語症例の録音・録画教材などから、情報を観察、記載できる。集めた情報を分析し、障害構造・問題点を明らかにすることができる。問題点に対する訓練目標・プログラムの立案ができる。立案に基づいた訓練教材の選択・作成ができる。症例の報告書を作成できる。標準失語症検査をスムーズに実施し、情報を読み取ることができる。グループ演習では、専門的知識を対象者にわかりやすく伝達することができる。計画・実践・報告を通して、臨床業務の流れを体験する。				
授業計画				
回	内容			
1	SLTAの取り方の実際（ドリル：全員）		（今井・菊森）	
2	SLTAの取り方の実際（実技テスト：個人）※1		（菊森）	
3	いきいきの郷グループ演習計画		（今井・菊森）	
4	いきいきの郷グループ演習（各グループ）※2		（菊森）	
5	ケース①提示 ＊レポート		（太田・今井・菊森）	
6	ケース①解説		（太田・今井・菊森）	
7	ケース②提示 ＊レポート		（太田・今井・菊森）	
8	ケース②解説		（太田・今井・菊森）	
9	ケース③提示 ＊レポート		（太田・今井・菊森）	
10	ケース③解説		（太田・今井・菊森）	
11	ケース③解説 ケース④提示 ＊レポート		（太田・今井・菊森）	
12	ケース④解説		（太田・今井・菊森）	
13	ケース⑤検討 ＊レポート		（太田・今井・菊森）	
14	いきいきの郷グループ演習フィードバック1		（今井・菊森）	
15	いきいきの郷グループ演習フィードバック2		（今井・菊森）	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	各レポートが基準に達しなかった場合は、その都度再提出を求める。		
小テスト				
平常点	10%	いきいきの郷グループ演習の積極的参加と実施より評価する。		
その他	20%	実技テスト		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準失語症検査マニュアル 改訂第2版		日本高次脳機能障害学会 編	新興医学出版社	
標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版		藤田郁代	医学書院	
臨床力up！動画と音声で学ぶ 失語症の症状とアプローチ		森田秋子・春原則子	三輪書店	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
失語症訓練の考え方と実際 ―新人STへのヒント―		鈴木勉 編著	三輪書店	
自由記載				
備考				
※1 1人1回以上実施				
※2 準備及び臨地演習1回				